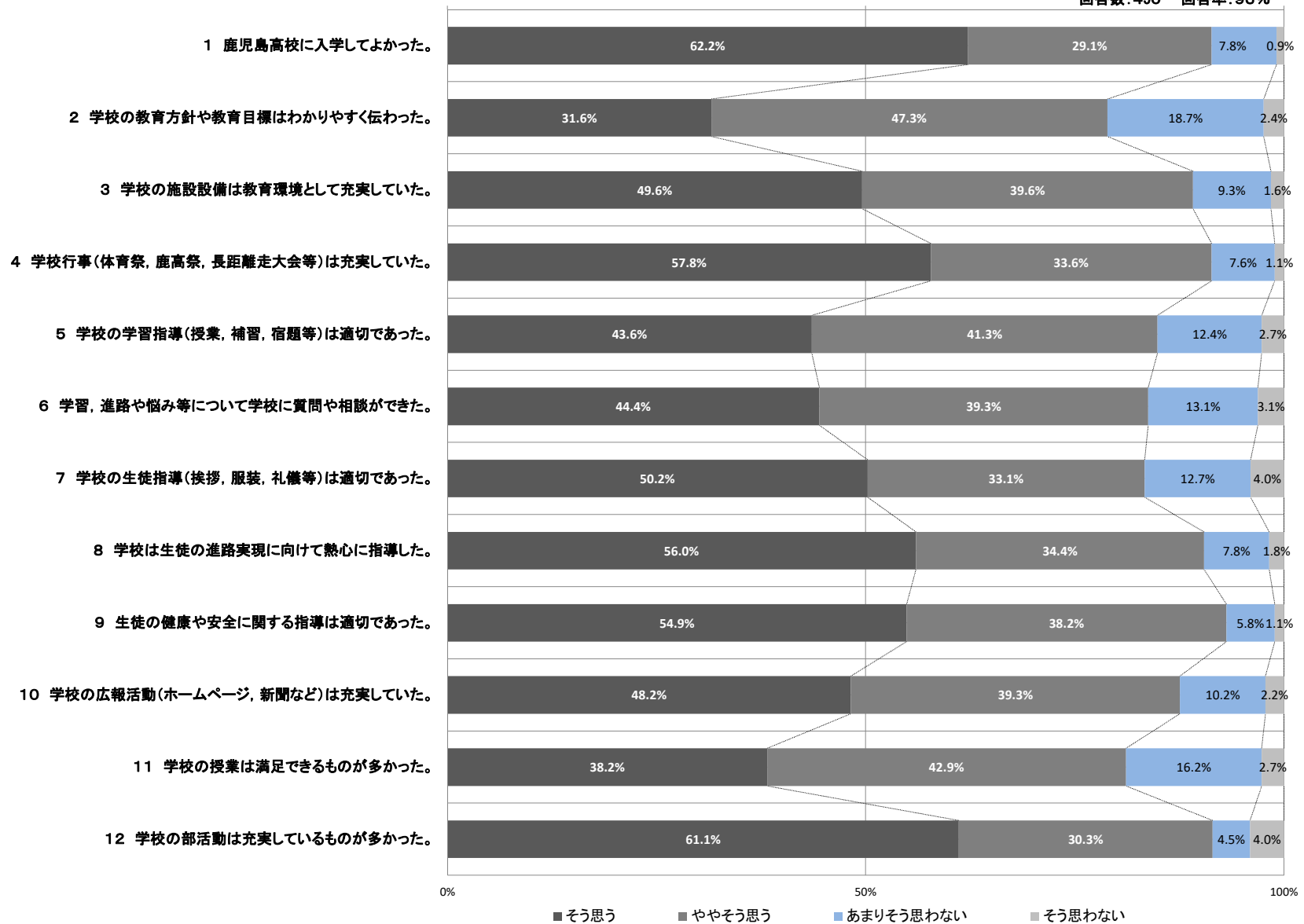


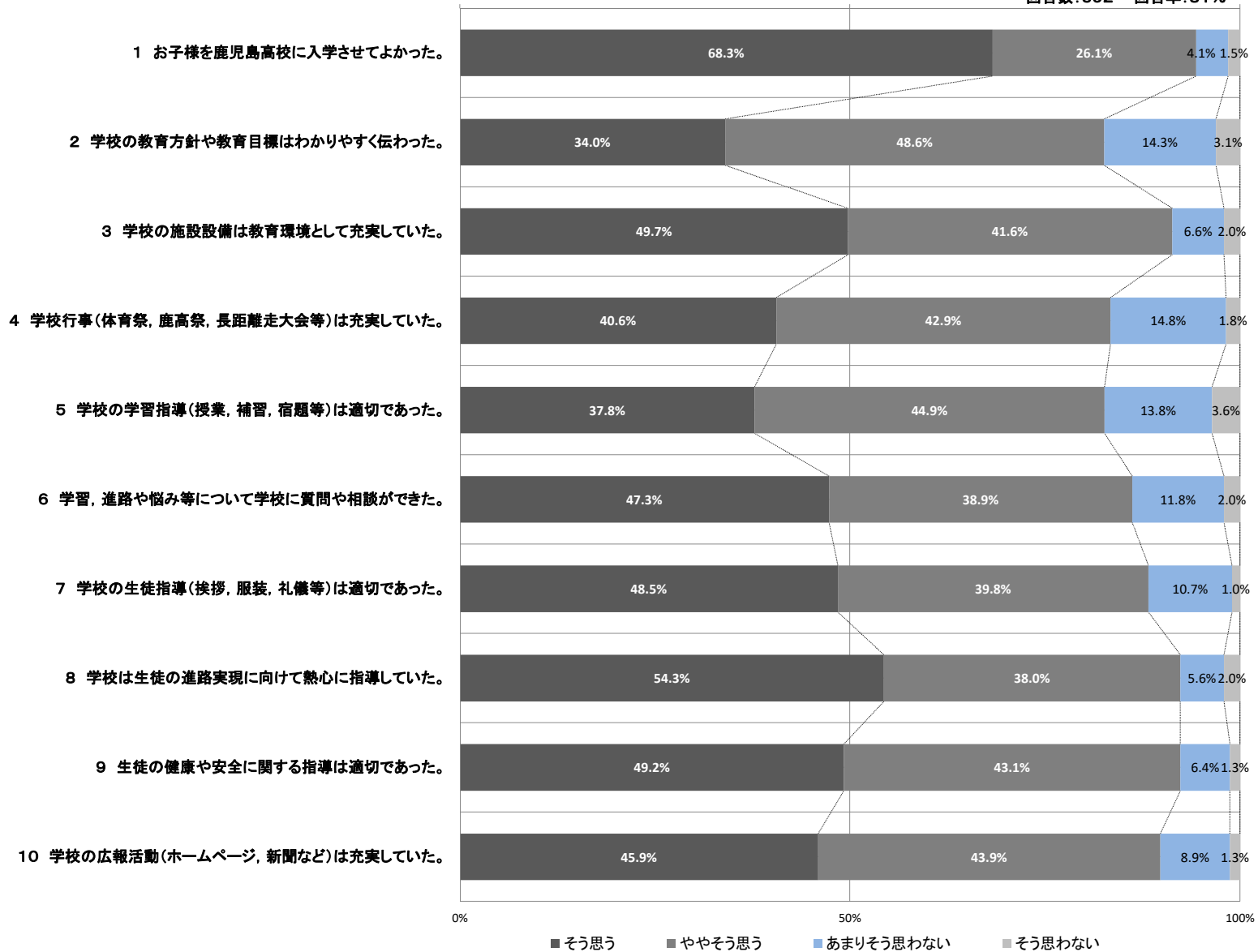
●令和2年度学校評価アンケート結果(生徒)

回答数:450 回答率:93%



●令和2年度学校評価アンケート結果(保護者)

回答数:392 回答率:81%



令和2年度 学校関係者評価

1 総合評価	
4.8	<input type="checkbox"/> 学校評価アンケートの数値が好評価を得ている。 <input type="checkbox"/> コロナ対応で大変だったと思われるが、できる範囲で相応の対応をしていたと感じる。
2 学校行事評価	
4.6	<input type="checkbox"/> 様々な工夫がなされていた。卒業式も良かった。 <input type="checkbox"/> 感染症下、良くやったと思われる。
3 生徒指導評価	
4.6	<input type="checkbox"/> 登下校時のマナー等、引き続き指導していただきたい。 <input type="checkbox"/> 最近は爽やかな印象を受けることが多い。
4 要支援生指導評価	
5.0	<input type="checkbox"/> 個々にきめ細かい対応をしている点が素晴らしい。 <input type="checkbox"/> 生徒に対する様々な対応は一定の評価に値する。
5 進学指導評価	
4.6	<input type="checkbox"/> 国公立大学への合格者をさらに伸ばしてもらいたい。 <input type="checkbox"/> 国際大学への入学者をさらに増やして学園を盛り上げてください。
6 就職指導評価	
4.8	<input type="checkbox"/> 連続100%をさらに継続してください。 <input type="checkbox"/> 離職率に関する調査や追跡を行い、検証をされてはと思います。
7 保健安全指導評価	
5.0	<input type="checkbox"/> コロナ対策で大変だと思います。 <input type="checkbox"/> 生徒の安全を見守ってください。
8 広報活動評価	
5.0	<input type="checkbox"/> 非常に活発な活動をされていて、様々な情報発信が楽しい。 <input type="checkbox"/> 広報部の活動が入学率に好影響を与えていると感じます。

4段階評価 A(5点)・・・取組が良い B(4点)・・・取組がおおむね良い C(3点)・・・取組が物足りない D(2点)・・・取組が悪い

令和2年度 学校自己評価

基本目標・基本的視点・主な具体的取組			担当課	計 画		最 終 評 価	
				スケジュール	目 標		
1 学校ブランド力の向上							
I	生徒・保護者からの満足度向上	多様な進路に対応可能な学校設定科目の構築	普通科	4～1月 「未来探求」実施 4～3月 校内協議(毎月1回)アンケート実施 1月	①新カリキュラムの検討編成 ②満足度90%以上	C B	<p style="color: red;">目今のコロナ対応等に追われ一部変更 次年度は、コロナの状況次第ではあるが、実施する予定である</p> 全ての学年で90%以上を達成 未実施
		①難関大・国公立大学合格者増 ②奨学金制度の運用改善	英数科	5～12月 校内学科会協議 12月 改善策とりまとめ	①該当生徒運用見直し検討 ②奨学金見直しの共通認識	B B	在籍64で国公立現役28。九大2,熊薬1で健闘 運用見直しを提案。学科会で共通認識を確認
		インターンシップの活性化	情ピ科	7月 インターンシップ実施	①7月実施 ②50社, 150名参加	B	飲食店とのコラボ商品開発で生徒が主体的に動き、販売まで成功した
		学校評価・学校生活アンケートの活用	教務部	10月 1・2年生徒アンケート実施 11～12月 集計・分析・結果とりまとめ 1月 3年生徒・保護者アンケート実施 2月 集計・分析・結果とりまとめ	肯定的評価90%以上	B	一部の項目で、改善の余地はあるが概ね良好
II	地域社会への貢献	ボランティア活動の推進	三弧会	通年 ペットボトルキャップ回収作業の実施	掃除の時間に三弧会役員が中心となって回収作業実施	B	掃除の時間に三弧会役員が輪番(2名)で回収作業を行った。
			各学年学科	通年 各学年学科ごとの奉仕作業の実施	各学年学科最低1回以上のボランティア活動の実施	C	<p style="color: red;">コロナ禍の影響もあり、実施に至らない学年学科が多かった。 次年度は、コロナの状況次第であるが、実施する予定である</p>
			三弧会	通年 募金活動の実施	「赤い羽根募金」「緑の募金」等の募金活動への積極的参加	B	三弧会役員やクラス役員を中心に「赤い羽根募金」に取り組み、たくさんの募金を集めることができた。
2 先進的な教育課程の編成							
I	語学力・コミュニケーション能力の強化	カリキュラム編成	教務部	4～3月 新入試制度に対応するための編成可能な学校設定科目の検討	情報を収集し、編成可能な学校設定科目の検討・決定	B	各教科からの案および探究活動準備研修担当から、総合的な探究の時間の案も提出され、次年度へ向けて検討事項が確認できた
				II	グローバル教育の充実	エンパワーメントプログラムの充実	教務部

- ※1 具体的取組については、ビジョン事業計画表に記載のもののほか
 主なものを記載してください。
- ※2 A 優良 (計画以上:110%以上) B 良好 (計画通り:90%～109%達成)
 C 要改善(計画遅れ:70%～89%達成) D 不可 (計画未達成:69%以下)

令和2年度 学校自己評価

基本目標・基本的視点・主な具体的取組			担当課	計 画		最 終 評 価			
				スケジュール	目 標				
3 未来を築く進路保証									
I	次期学習指導要領や大学入試改革への対応	① 次期学習指導要領・大学入試改革に対応できる学科・学年・教科との連携	進学指導	年6回	進学指導委員会	進学指導全般の計画的運用	B	計画通り実施	
				年3回	総合・推薦入試対策委員会	充分な全体・個別指導対策の立案・運用	B	計画通り実施	
				年4回	推薦会議	妥当な推薦者の選定	B	計画通り実施	
				年13回	学年・教科模試分析会	学力把握と対策・指導改善	C	学年会は良好 教科会はコロナの影響で入試作問が増えたせいで十分に実施できなかった 次年度は、計画通り実施したい。	
				年間	ICT教材の活用	学びへの姿勢の改善	B	進学コロナ影響による利用意識拡大	
		年間		Classiの積極的活用	自主活用率50%以上	D	調査ログイン率50%未満 次年度は、タブレット導入を念頭に、研修を実施しログイン率の向上を図りたい。		
		年間		ポートフォリオ作成	生徒の成長実感向上	B	クラッシュ・キャリアパスポート利用		
		10月		2年キャリアアップセミナー	普通・情ビ科生徒の鹿国大理解	-	中止		
		5月		3年鹿国大説明会	鹿国大進学希望者60名以上	B	65名参加		
		7月		同一学園エントリー	エントリー60名以上	B	51名受験(11月時)		
10月	鹿国大同一学年推薦	推薦者全員合格	B	51名合格					
II	進路実現に活用できる各種の資格取得	④ 難関大進学の実現	英語科	年3回	1年進研模試	国公立合格可能70名以上	B	総合B1以上(3教科総合)72名	
				年3回	2年進研模試	国公立合格可能70名以上	B	総合B1以上(3教科総合)61名	
				10・11月	1・2年進路ガイダンス	進学意識涵養	B	リモート導入実施	
				年7回 9月～ 10月～	3年各種模試 総合・推薦選抜 入学共通テスト受験者	国公立合格可能70名以上 国公立合格者10名以上 200名	C C D	総合B1以上52名(文理計) 国公立4大7名合格 113名受験(1月)目標不達成	
				1月～	国公立一般入試	国公立合格40名以上	B	現役国公立合格35名	
		英検・商業科目特別講座などの実施		英語科	6・10・1月	実用技能検定試験	大学受験に向けて全員に受験を促す	D	準1級合格:5名、2級:59名、準2級:84名 大きな目標を掲げたため、目標未達となったが、近年では一番多く準1級の合格者を出した 今後は、実用英語検定取得が共通試験等などにも優遇される大学が多いので、検定取得の推進により一層力を入れたい 次年度は身の丈に合った目標とし、達成を図りたい
					9・12月	全商英語検定	準1級:25名、2級:120名、準2級:150名		
					10月	全勝スピーチコンテスト	の年間受験を目標とする		
					6月	珠算・電卓・簿記実務検定	英検2級以上40名		
					7月	ビジネス文書実務検定	全商1級3種目以上11名		
実用英語技能検定特別指導等の実施	就職指導部	9月	英語検定・情報処理検定	C	英検2級以上1名(台風中止含む) 全商1級3種目以上8名 検定試験自体は、概ね計画通り実施・受験できたが、指導する時間がどうしても不足した。また、進路日程が変更になり、応募や出願までに取得が間に合わない場合もあったが生徒の意欲は衰えなかった。 全商英語検定については、昨年同様、目標を達成できず、課題を残す結果となった 次年度は、目標見直しを含め、目標達成に向けて努力したい				
		11月	珠算・電卓実務検定 ビジネス文書実務検定						
		12月	英語検定						
		1月	簿記実務検定・情報処理検定						
		2月	商業経済検定						

※1 具体的取組については、ビジョン事業計画表に記載のもののほか
主なものを記載してください。

※2 A 優良 (計画以上:110%以上) B 良好 (計画通り:90%～109%達成)
C 要改善(計画遅れ:70%～89%達成) D 不可 (計画未達成:69%以下)

令和2年度 学校自己評価

基本目標・基本的視点・主な具体的取組			担当課	計 画		最 終 評 価		
				スケジュール	目 標			
4 三弧会・部活動のさらなる活性化								
I	学校行事の活性化	体育祭, 鹿高祭, クラスマッチなどの生徒主体の企画・運営	三弧会	9月	体育祭	① 生徒主体の運営 ② 種目の精選	B	コロナ禍に対応した種目でプログラムを作成した。また、今回だけは生徒主体でなく、職員主体の運営となったがうまくいった
				9月	鹿高祭	① 生徒主体の運営 ② 内容の精選	B	コロナ禍に対応したプログラムで時間を短縮しての開催となった。模擬店や店舗運営実習のにこにこ市は開催できなかった
				7・3月	クラスマッチ	① 生徒主体の運営 ② 種目の精選	B	感染症予防対策をしっかりと行い、生徒主体の運営をすることができた
II	全国大会で活躍できる部活動の育成	入部率を高め、強化指定部を中心として、部活動・同好会を活性化させる。	三弧会	4月	新入生オリエンテーション	① 入部率70% ② 全国大会出場部活動目標数7。	D	コロナ禍の影響で新入生オリエンテーションでの部活動紹介を行うことができなかった。 次年度は、コロナの状況次第であるが、実施する予定である
				7月	全国大会出場者壮行会		D	コロナ禍の影響で全国大会出場者激励会(県予選が実施できず)を実施することができなかった。 次年度は、コロナの状況次第であるが、実施する予定である
				9月	体育祭での部活動紹介		B	体育祭での部活動紹介では、各部それぞれ自分たちをアピールすることができた
5 生徒募集の強化								
I	専願入学者増を目的とする募集体制の確立	中学校・学習塾訪問 企画・実施	企画広報部	4~3月	中学校訪問 年8回	正確な情報の蒐集と伝達	B	計画通り8回実施
				4~3月	学習塾訪問 年3回	正確な情報の蒐集と伝達	C	コロナの影響で2回の実施 次年度は、コロナの影響次第であるが、計画通り実施予定
				4~11月	4月 発表資料作成 年間 約100校	魅力ある資料制作 魅力の確実な伝達と定着	B	年間で86校実施 内容も分かりやすいと好評
				4~10月	7・8月 夏の体験入学	参加者2500人 受験率100%	B	年間、生徒約2,250名、保護者約700名参加 受験率は約70%
					10月 秋の体験入学	参加者500人 受験率100%	C	次年度は、コロナの影響次第であるが、計画通りの受験率を見込む
II	受験者のニーズに合わせた入試制度改革	公立高校入試問題傾向変化への対応	教務部	4~3月	4月 学校案内 7・11月 ZIGZAG 年間9回 GreenAge	県内で最も魅力的な学校案内の作成 最新の情報を魅力的に伝達 素早く最新の情報を伝達	B B B	校内外から好評を得ている 計画通り年間2回発行 計画通り年間9回発行
				6~11月	各教科作問者への啓発 および本校入試問題への反映	令和2年度入試で変化した公立高校の出題傾向も踏まえた作問	B	推薦入試(英数科)における数学と英語の総合問題、一般入試、コロナ感染症対策としての追試験、すべて予定通りに作問等実施できた

※1 具体的取組については、ビジョン事業計画表に記載のもののほか
主なものを記載してください。

※2 A 優良 (計画以上:110%以上) B 良好 (計画通り:90%~109%達成)
C 要改善(計画遅れ:70%~89%達成) D 不可 (計画未達成:69%以下)

令和2年度 学校自己評価

基本目標・基本的視点・主な具体的取組		担当課	計 画		最 終 評 価		
			スケジュール	目 標			
6 職員の資質向上							
I	年次別研修の充実	初任者研修・経験者研修の実施	4～3月 4～3月	初任者研修 経験者研修	初任者における一般指導 10回 初任者における教科指導 20回 (研究授業 3回を含む) 経験者研修における研究授業1～2回	B	当初の予定通り研修を実施することができた。校内授業参観期間を利用して行った研究授業では、教科を超えた授業研究ができた
		ICT教育の推進 アクティブラーニング型の授業研修の実施	4～3月 4～3月	準備室設置 校外研修参加	R3年度にICT推進室を設置する 参加目標 各教科1名以上 教科を越えた研究授業	B	ICT推進室は、次年度の設置が決定 校外研修は、Zoomによるオンラインでの研修に参加することができた
7 安定した財政基盤の確立							
I	健全財政の維持, 学校教育予算の拡充	公的補助金の獲得 ・補助金対象事業の厳格な選定と対象事業抽出漏れの防止	通年	補助金対象事業の厳格な選定と抽出漏れチェック	補助金対象事業の抽出もれゼロ	B	補助金対象事業の抽出もれなし
		収入の安定確保 ・校納金滞納者管理の徹底	通年	毎月の滞納者管理の徹底	3月末 滞納者ゼロ	B	滞納者2名(1ヵ月) 各担当者は粘り強く督促を実施した
		・計画的な予算の執行	通年	予算執行状況の確認	予算外支出ゼロ (突発的な支出を除く)	B	突発的な支出を除き、予算外支出ゼロ
		・業務改善による経費の削減	通年	業務改善提案による経費削減および時間削減	業務改善提案年間3件	A	業務改善提案受付16件
		・転退学者の削減による収入機会の確保	4～3月	教育相談室を中心とした長欠者等への対応	転退学者率 2.5%以下	B	教育相談室を中心に、要支援認定生への対応・声かけができた

※1 具体的取組については、ビジョン事業計画表に記載のもののほか
主なものを記載してください。

※2 A 優良 (計画以上:110%以上) B 良好 (計画通り:90%～109%達成)
C 要改善(計画遅れ:70%～89%達成) D 不可 (計画未達成:69%以下)